

平成 28 年度事務事業評価表(公共事業・継続)

No. 417

事務事業名	街なみ環境整備事業
-------	-----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	都市整備部		
課名	都市計画課		
課長名	桑原 盛雄	内線	430
担当者名	後藤 誉志	内線	432

基本目標		機能的で環境と調和したまち
政策	050302	快適で暮らしやすい都市環境の整備
施策		景観の保全
関連施策		

会計	一般会計		
款	8	土木費	
項	5	都市計画費	
目	1	都市計画総務費	
事業コード	020100	街なみ環境整備事業	

事業類型	7	施設等整備事業(負担金含む)
個別計画	大村市都市景観基本計画、街なみ環境整備事業計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	上小路周辺地区の民間が所有する建築物、工作物、広告物及び公共施設		
意図 対象をどのような状態にしたいか	玖島城の城下町として多くの石垣や石塀、武家屋敷等が残る上小路周辺地区を「上小路周辺景観形成地区」として指定し、その地域の特長にふさわしい景観づくりを、民間と行政が一体となって進めていく。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	上小路周辺景観形成地区内において、公共施設(道路、小公園、緑地、案内板等)を行政側が整備する街なみ整備事業と、民間所有の建築物等の修景(塀、門、生垣、屋外広告物等)基準に基づき整備する場合に、損小費用の一部を助成する街なみ整備助成事業がある。		
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 28 年度	実施方法	直営、補助

成果指標名	重要路線の整備状況			算定式等	当該年度までの整備延長/重要路線の整備総延長	
着手前現状値	平成 17 年度	単位	%			0
完了後計画値	平成 27 年度					100

【DO(実施)】

事業実施項目	25年度まで	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
基本計画	実績・計画額	8,000	0	0	0			8,000
	項目別進捗率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	
実施設計	実績・計画額	16,589	0	0	0			40,152
	項目別進捗率	41.32%	41.32%	41.32%	41.32%	41.32%	41.32%	
用地・補償	実績・計画額	27,714	1,876	0	0			237,227
	項目別進捗率	11.68%	12.47%	12.47%	12.47%	12.47%	12.47%	
建設工事	実績・計画額	480,060	111,175	34,488	0			740,621
	項目別進捗率	64.82%	79.83%	84.49%	84.49%	84.49%	84.49%	
事務費等	実績・計画額	30,584	3,292	249	0			114,500
	項目別進捗率	26.71%	29.59%	29.80%	29.80%	29.80%	29.80%	
合計	実績・計画額	562,947	116,343	34,737	0			1,140,500
	項目別進捗率	49.36%	59.56%	62.61%	62.61%	62.61%	62.61%	

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	83,255	116,343	34,737	0	0	0	0	0
国庫支出金	41,029	57,054	17,230	0				
県支出金								
地方債	38,000	53,000	15,700	0				
その他								
一般財源	4,226	6,289	1,807	0				
② 人件費(千円)	7,644	3,161	2,441	7,454	事業内容	事業内容	事業内容	B/C
職員人数(人)	0.90	0.36	0.33	0.97				
時間外勤務(時間)	246	220	57	200				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	90,899	119,504	37,178	7,454				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成27年度 上小路周辺地区整備 道路美装化 道路美装化工事 L=71.7m、散策路整備 L=114.5m、案内板設置 案内板設置 N=19箇所
事業が抱える問題・課題等	平成27年度で事業計画期間が終了となったため、平成26年度末進捗率が事業費ベースで約63%で、補助事業として事業完了出来ない状況となっており、未整備の事業について見直しを行った。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし
	上小路周辺景観形成地区を指定し、その基準を住民が遵守していくには、修景等にかかる費用の一部を助成することが景観行政を進める上で必要条件である。また、都市景観形成には住民と行政が協働で行うことが大切であるため、民間の建物等と公共施設整備を一体となって進める必要がある。このことにより、調和のとれた美しい街なみや住民にとって愛着と誇りを持つ街なみ形成を推進するとともに、大村の観光スポットとしての活性化を図る。					
有効性	【緊急性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし
	歴史を活かした観光振興計画の具体的観光施策において、同地区の整備が挙げられている。また、開発、建替により歴史的工物が失われていく状況の中、現存する歴史的資源を保全することが急務であるとともに、公共施設を一体的に整備することによって美しいまちづくりに繋がる。さらに、市が団体の活動費を一部助成することにより活動が活発となり、新たな団体の組織作りも容易になる。					
効率性	【施策成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし
	景観形成地区の指定と合わせた助成制度の運用と公共施設整備の着手は、周辺地域住民をはじめ市民の協力賛同が得られる。また助成により後押しすることによって、市民と行政と協力した景観づくりができる。					
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり	該当なし	
	公共施設の整備に関しては、国の補助事業(国1/2、市1/2)を活用し、事業を進めている。また、公共事業コスト削減対策「大村市新行動計画」に基づきコスト削減に努める。					
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし
	民間所有物の助成事業である、街なみ整備助成事業の負担割合については、国の補助事業を活用すれば、国1/3、市5/12、所有者1/4の負担割合となり、民間所有物の整備が促進され、魅力ある景観の保全・創造が図られ適切である。					

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	終了
---------------	----

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	当初計画していた事業期間が終了したが、整備率は事業計画で約63%にとどまっている。また、当事業に関して地区住民へアンケート調査を行ったところ、回答者の約9割の方が整備の必要性があるとの回答だった。以上のことから、当地区における住環境のさらなる向上を図ること目的として道路の美装化、地区内公衆トイレの整備を含めた「街なみ環境整備事業(第2期)」を実施したい。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
意見等				内容		

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。